

野田秀樹×クイーンの奇跡、再び。

3年前、大きな話題と数々の賞と観客7万人を集めた『Q』が、オリジナルキャストのまま帰ってくる。国内外4都市ツアーも決まった同作を野田秀樹が語る。

野田秀樹の作品は、いつも観る者の予想を遙かにしのぐ。どんなに注意深く扉を開けても、惜しみなくちりばめられた美しい言葉と仕掛けに刺激され、想像力が大きく膨らんだところで、思いも寄らない史実の只中に接続されて、出口に立った時には、未知の感覚が覚醒した自分がいる。

2019年に上演された『Q』は、世界的ロックバンドQUEENの楽曲が全面的に使われ、原案はシェイクスピアの『ロミオとジュリエット』、さらに歌舞伎の要素が入るという前情報はあったが、ふたを開けると「源平合戦」や「俊寛」、そして多くの人が無念の死を遂げた実在の場所が緻密に絡み合う、とりわけアクロバティックな舞台だった。

「クイーンサイドから“自分たちの音楽を使って日本のテイストの入った演劇作品をつくってほしい”という話が来た時に、いつかやりたいと考えていた『ロミジュリ』とつながれそうだと思わせてくれたのは、(ロミオの親友の)マキューシオってマーキュリーが語源で、(クイーンのボーカルの)フレディ・マーキュリーとつな

がるなど、ふと思ってなんです。それ自体、作品には反映されなかったけれども、そうした偶然というのは作品にとって大事です。日本的な要素は『ロミジュリ』と『源平』を重ねられるかと考える中で、ジュリエットの従弟のティボルトは源平合戦だと木曾義仲に当たる——義仲は頼朝の従弟で、頼朝には妹がいたんで、それがジュリエットになるな——と発見したり、『A Night at the Opera (オペラ座の夜)』のCDを聴きながら歌詞を読みこんでは、『ボヘミアン・ラブソディ』はマザコンの人殺しの歌だ、これはロミオにつなげられるなど発見していきました。初演の台本で、源の愁里愛(ジュリエット)が結婚するのを嫌がる男(ロミジュリのパリス役)として北条義時を登場させているんですよ。今、『鎌倉殿の13人』で話題の。でも初演時は特に有名ではなくて、ほとんどのお客さんは反応していなかった。再演を観て、私が大河に合わせたと思われるかもしれませんが、初演から入れています(笑)。これは、映画ボヘミアンラブソディーの大ヒットの前にすでに、このプロジェクトは立ち上がっていた、というのと同じかな。あ、

ちょっとスケールが違うか。(笑)」

こうして何本もの異なる糸が分ちがたく撚り合わされ、想像力に火を点ける導火線になった『Q』は大好評を博したが、まさか多忙なメインキャスト10名がひとりも欠けることなく再演がかなうとは誰が予想できただろう。しかも東京、大阪、ロンドン、台北の4都市を巡る世界ツアーが決定した。

「公演中から手応えはあって、みんなで“またこのメンバーで再演したい”と話していました。でも、たいていの公演でそういう話が出るので(笑)、本当に全員揃ったのは奇跡ですね、いい方の。あ、悪い奇跡ってないのか。世界ツアーに関しては、クイーンのマネージャーが観に来てくれた時に“これ、ロンドン持って行かないの?”という話が出て、その後、ブライアン・メイに会った時も“イギリスに持ってこないのか?”と。その時は“そりゃあ言うのは簡単だけど”と思っていましたが、劇場が呼んでくれた。個人的に非常にうれしいのは、ロンドン公演の会場がサドラーズウェルズ・シアターということですね。イギリスではフィジカル系の優れた作品がかか



る劇場であり、イギリス留学で一番最初のワークショップをしたのがこの劇場のスタジオだったので思い出深い場所でもあります。台湾の劇場は台湾國家兩廳院 國家戲劇院というんですが、劇場のトップが女性だからなのかな、すべてにおいて風通しが良い。以前も公演をしているんですが、観客も含めて、待ちに待ってくれる感じで、今回も楽しみにしています」

取材・文：徳永京子（演劇ジャーナリスト）

2022年7月29日(金)～9月11日(日) プレイハウス 詳細はP8, P10, P12へ

作・演出:野田秀樹 音楽:QUEEN

出演:松たか子 上川隆也 広瀬すず 志尊淳

橋本さとし 小松和重 伊勢佳世 羽野晶紀 野田秀樹 竹中直人 ほか
東京公演チケット一般発売:7月3日(日)

●大阪公演 10月7日(金)～10月16日(日) 新歌舞伎座

[海外ツアー]

●ロンドン公演(英語字幕あり) 9月22日(金)～9月24日(日) Sadler's Wells Theatre

●台北公演(台湾語字幕あり) 10月22日(土)～10月30日(日) 台湾國家兩廳院 國家戲劇院

『Q』公式ホームページ: <https://www.nodamap.com/q2022/>

